

高校生 × 技術者

私たちの暮らしを支える建設業。建設会社で現場監理の仕事に携わる女性技術者と、建設業を目指す高校生に、青森で働く魅力と建設業のやりがいについて語っていただきました。

人々の暮らしを支え
青森の地図に残る仕事

塚尾香澄 建設会社で現場監理の仕事をしています。もともと、銀行員を目指していたんですが、友人のお父さんが建設関係の仕事をしていて、「自分が書いた設計図に合わせて建物が建ったり、形に残る仕事って素敵だな」と思い、高校3年生の時に建設業に進むことを決意。東



京の専門学校で学んだ後、地元に戻り就職しました。
大久保博世 大工として働く父の姿に憧れて建設業に興味を持ちました。地元の建設会社に就職が決まり、

将来は塚尾さんのように現場監理の仕事をするのが夢です。塚尾さんは、どんなところに仕事のやりがいを感じますか？
塚尾 施設や道路が完成して、発注者の方が喜ぶ姿を見た時！地元の方の暮らしに役立っている、という実感が込み上げてきます。
大久保 そうですよ。インターンシップで建設会社を訪問した際、普段利用して

いる道路や施設は、こういう方たちが丁寧に造っているからこそ安全で便利な暮らしがあると思いました。
塚尾 県外就職を考えたことは？
大久保 ないですね。地元若くは人が少なくなっているのでも、地元に残って地域に貢献できたらいいな。それに、青森は空気もきれいで住みやすいです。
塚尾 我が家は3人の子ど

地元で、やりがいのある仕事ができるって幸せ。



もがいますが、仕事と子育てを両立するために、よく親にも協力してもらいました。地元は地域のつながりがあるし、親や親せき、友人もいるので安心ですね。

モノづくりの醍醐味を
子どもたちに伝える

塚尾 昨年、県の「女性建設技術者ネットワーク会議」に参加し、県内で活躍する女性の現場監督などの仲間が増えました。仕事に誇りを持ち、自分の子どもに建設現場で働く姿を見せるなど、皆さんすごくカッコいい！県内にこうしたネットワークが広がり、建設業の魅力を発

信していくことで担い手も増えていくのでは？大久保さんは、子どもたちに建設業の魅力を伝えるためにどうしたらいいと思いますか？
大久保 私自身がそうでしたが、建設現場で働くカッコいい大人の姿を見せることも大事です。また、「モノづくりって楽しい！」と思えるような、遊びの要素を取り入れた体験型イベントを開催するのもいいですね。



建設業への就職は、私にとって新たなチャレンジ。現場の話を知ると、より魅力を感じます。

塚尾 建設業は長く続けられる仕事ですし、首都圏と違って県内の建設業は、見積もりから完成までトータル

ひとりでも多くの若者が、働きたいと思う場所が増えると思えば、暮らしが豊かになるよね。で関わる人が多いので、その分やりがいがあります。来春からは、大久保さんも私たちの仲間ですね。ぜひ一緒にがんばりましょう！



十和田工業高校 建築科3年 **大久保博世**さん

株式会社工藤組 平成7年入社七戸町出身 **塚尾香澄**さん

建設業のやりがい・魅力を発信しています！

【夏休み親子バスツアー】

県内の小中学生親子を対象に、バスで県内の工事現場や土木施設などを巡る「夏休み親子バスツアー」を開催しています。バスツアーでは建設中の競技場や道路を間近で見学することができたり、重機に乗車体験することができたりと、親子一緒に建設業の魅力を味わうことができるツアーになっています。



【建設業に関する公開講座】

県内の小中学生を対象に「建設業に関する公開講座」を開催しています。公開講座では「東京スカイツリーの建設」など実際に建設業に携わる方の講演や、建設業に使われている物理学などを実際に見て学ぶことができる「実験ショー」など、子どもから大人まで、建設業のやりがいや魅力を知ることができる講座になっています。



【高校生と若手技術者との意見交換会】

将来建設業を目指す高校生の皆さんを対象に、「高校生と若手技術者との意見交換会」を開催しています。意見交換会では、県内の若手技術者が自分たちの経験をもとに建設業のやりがいや魅力を直接高校生に伝えているほか、高校生が就職について疑問や不安に思っていることに若手技術者が回答することで、入職後のギャップを未然に防ぐことにもつながっています。

